

日商簿記Ⅰ級 セミナー

「CVP分析（損益分岐点）について」

担当講師：岡島 貴枝



財務会計と管理会計

企 業 会 計 企業の活動に関するお金の動きを報告する	
【財 務 会 計】	《管 理 会 計》
企業外部のための会計	企業内部のための会計
外部報告目的	内部報告目的
株主、その他の利害関係者に対して財務諸表を作成し報告する	経営に役立てるため経営者や業績管理者に対して報告する
損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書をルールにもとづいて作成する	企業の任意で作成されるため、ルールはない
過去思考	未来思考

原価を集計する範囲の違い

【財 務 会 計】	《管 理 会 計》
全 部 原 価 計 算	直 接 原 価 計 算
すべての製造原価を製品原価として計算	製造原価のうち変動費のみを製品原価として計算

直 接 原 価 計 算

直接材料費
直接労務費
変動製造間接費

変動製造原価

製品原価処理

固定製造間接費

固定製造原価

期間原価処理

※ 全部原価計算
では製品原価処理

原価を集計する範囲の違い

全部原価計算

すべての製造原価を製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動製造原価	製品原価
	直接労務費		
	変動製造間接費		
	固定製造間接費	固定製造原価	

直接原価計算

製造原価のうち変動費のみを
製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動製造原価	製品原価
	直接労務費		
	変動製造間接費		
	固定製造間接費	固定製造原価	A

A：固定製造原価は『期間原価』

『期間原価』：会計期間の費用

原価を集計する範囲の違いと 損益計算書 との関係

全部原価計算
すべての製造原価を製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動製造原価	製品原価	販売分	売上原価(P/L)
	直接労務費				
	変動製造間接費				
	固定製造間接費	固定製造原価		未販売分	期末製品(B/S)

全部原価計算のP/L

売	上	高
売	上	原 価
売上総利益		
販売費および一般管理費		
営業利益		

→ 販売分
→ 販売分
→ 販売分
→ 発生分

原価を集計する範囲の違い

全部原価計算

すべての製造原価を製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動製造原価	製品原価
	直接労務費		
	変動製造間接費		
	固定製造間接費	固定製造原価	

直接原価計算

製造原価のうち変動費のみを
製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動製造原価	製品原価
	直接労務費		
	変動製造間接費		
	固定製造間接費	固定製造原価	A

A：固定製造原価は『期間原価』

『期間原価』：会計期間の費用

原価を集計する範囲の違いと 損益計算書 との関係

直接原価計算

製造原価のうち変動費のみを
製品原価として計算

全ての製造原価	直接材料費	変動製造原価	製品原価	販売分	変動売上原価 (P/L)
	直接労務費			未販売分	期末製品(B/S)
	変動製造間接費				
	固定製造間接費	固定製造原価	A	固定費(P/L)	

直接原価計算のP/L

売上高	→ 販売分
変動売上原価	→ 販売分
変動製造マージン	→ 販売分
変動販売費	→ 販売分
貢献利益	→ 販売分

固定費	
A 固定製造原価	
固定販売費	
固定一般管理費	
営業利益	

→ 発生分

全部原価計算のP/L

すべての製造原価を製品原価として計算

売	上	高
売	上	原 価
売上総利益		
販売費および一般管理費		
営業利益		

→ 販売分
→ 販売分
→ 販売分
→ 発生分

直接原価計算のP/L

製造原価のうち変動費のみを製品原価として計算

売	上	高
変	動	売 上 原 価
変動製造マージン		
変	動	販 売 費
貢献利益		
固 定 費		
固定製造原価		
固定販売費		
固定一般管理費		
営 業 利 益		

→ 販売分
→ 販売分
→ 販売分
→ 販売分
→ 販売分
→ 発生分

変動費率：変動費 ÷ 売上高

貢献利益率：貢献利益 ÷ 売上高

CVP分析

営業量 (Volume) が変化したときに、原価 (Cost) や利益 (Profit) がどのように変化するかを分析するもの。
 予算編成の一環として行われる、おおまかな利益計画の設定ツールとして利用。

直接原価計算のP/L

製造原価のうち変動費のみを製品原価として計算

売上高	売上高	(100%)
変動売上原価	変動費	(変動費率)
変動製造マージン		
変動販売費		
貢献利益	貢献利益	(貢献利益率)
固定費	固定費	
固定製造原価		
固定販売費		
固定一般管理費		
営業利益	営業利益	

変動費率：変動費 ÷ 売上高

貢献利益率：貢献利益 ÷ 売上高

CVP分析

営業量 (Volume) が変化したときに、原価 (Cost) や利益 (Profit) がどのように変化するかを分析するもの。

予算編成の一環として行われる、おおまかな利益計画の設定ツールとして利用。

【問題 ①】

当社では、下記に示す製品を製造・販売している。製品1個あたりの販売価格と変動費は下記のとおりである。また固定費は190万円である。

	製品
1個あたりの販売価格	@2,000円
1個あたりの変動費	@1,400円

損益分岐点の売上高を求めなさい。

【問題 ①】

当社では、下記に示す製品を製造・販売している。製品1個あたりの販売価格と変動費は下記のとおりである。
また固定費は190万円である。 損益分岐点の売上高を求めなさい。

1個あたりの販売価格 @2,500円
1個あたりの変動費 @1,500円

【問題 ①】解答・解説

STEP1 売上高を S とおいて直接原価計算方式の損益計算書を作成する。

単位：円	損益計算書	
売上高	S	(100%)
変動費	$0.6 S$	@1,500÷@2,500=0.6
貢献利益	$0.4 S$	$(1) S - 0.6 S = 0.4$
固定費	1,900,000	
営業利益	$0.4 S - 1,900,000$	

【問題 ①】解答・解説

STEP2 Sについて解く

単位：円	損益計算書
売上高	S
変動費	0.6 S
貢献利益	0.4 S
固定費	1,900,000
営業利益	0.4 S - 1,900,000

STEP2 Sについて解く

$$\begin{aligned}0.4 S - 1,900,000 &= 0 \\0.4 S &= 1,900,000 \\S &= 4,750,000\end{aligned}$$

損益分岐点の売上高は、4,750,000円

Ⅰ級では製品の種類が複数となる

【問題②】

当社では、製品Aと製品Bを製造・販売している。各製品1個あたりの販売価格と変動費は下記のとおりである。また固定費については、両製品に個別に発生する固定費はなく、両製品に共通して発生する固定費は190万円である。

	製品A	製品B
1個あたりの販売価格	@2,500円	@2,000円
1個あたりの変動費	@1,500円	@1,400円

製品Aと製品Bの売上高が1:4の割合となるように販売するものとして、製品Aと製品Bの損益分岐点の売上高を求めなさい。

【問題 ②】

当社では、製品Aと製品Bを製造・販売している。各製品1個あたりの販売価格と変動費は下記のとおりである。
また固定費については、両製品に個別に発生する固定費はなく、両製品に共通して発生する固定費は190万円である。

	製品A	製品B
1個あたりの販売価格	@2,500円	@2,000円
1個あたりの変動費	@1,500円	@1,400円

製品Aと製品Bの売上高が1:4の割合となるように販売するものとして、製品Aと製品Bの損益分岐点の売上高を求めなさい。

$$\frac{1}{1+4}$$

$$\frac{4}{1+4}$$

【問題 ②】解答・解説

STEP1 売上高をSとおき、製品Aの売上高を $\frac{1}{5}S$ 、製品Bの売上高を $\frac{4}{5}S$ としてP/Lを作成する。

単位：円	製品A	製品B	全 体
売上高	0.2 S	0.8 S	S
変動費	0.12 S	0.56 S	0.68 S
貢献利益	0.08 S	0.24 S	0.32 S
固定費			1,900,000
営業利益			0.32 S - 1,900,000

【STEP1】
製品AとBと
別々に計算

STEP 1

売上高をSとおき、製品Aの売上高を $\frac{1}{5}S$ 、製品Bの売上高を $\frac{4}{5}S$ としてP/Lを作成する。

$$1 \div 5 = 0.2$$

$$4 \div 5 = 0.8$$

単位：円	製品A	製品B	全体 (A+B)
売上高	0.2 S	0.8 S	S
変動費	(-) 0.12 S	(-) 0.56 S	0.68 S
貢献利益	(=) 0.08 S	(=) 0.24 S	0.32 S

【問題 ②】

1個あたりの販売価格
1個あたりの変動費

製品A
@2,500円
@1,500円

製品A: 変動費率 =
 $1,500 \div 2,500 = 0.6$
∴ 変動費 =
 $0.2S \times 0.6 = 0.12S$

製品B
@2,000円
@1,400円

製品B: 変動費率 =
 $1,400 \div 2,000 = 0.7$
∴ 変動費 =
 $0.8S \times 0.7 = 0.56S$

STEP 1 全体の売上高をSとおき、製品Aの売上高を $\frac{1}{5}S$ 、製品Bの売上高を $\frac{4}{5}S$ としてP/Lを作成。

単位：円	製品A	製品B	全体 (A+B)
売上高	$0.2 S$	$0.8 S$	S
変動費	$0.12 S$	$0.56 S$	$0.68 S$
貢献利益	$0.08 S$	$0.24 S$	$0.32 S$
固定費			$1,900,000$
営業利益			$0.32 S - 1,900,000$

STEP 2 全体の売上高Sについて解く。

$$\begin{aligned}
 0.32 S - 1,900,000 &= 0 \\
 0.32 S &= 1,900,000 \\
 S &= 5,937,500
 \end{aligned}$$

STEP 3 全体の売上高S (5,937,500円) を製品Aと製品Bに配分計算する。

$$\begin{aligned}
 \text{製品Aの売上高} &: 5,937,500\text{円} \times \frac{1}{5} = 1,187,500\text{円} \\
 \text{製品Bの売上高} &: 5,937,500\text{円} \times \frac{4}{5} = 4,750,000\text{円}
 \end{aligned}$$

製品A と 製品B に
配分計算

参考

CVP分析【問題③】

当社では、製品Aと製品Bを製造・販売している。各製品1個あたりの販売価格と変動費は下記のとおりである。
また固定費については、両製品に個別に発生する固定費はなく、両製品に共通して発生する固定費は190万円である。

	製品A	製品B
1個あたりの販売価格	@2,500円	@2,000円
1個あたりの変動費	@1,500円	@1,400円

製品Aと製品Bの販売量が2:3の割合となるように販売するものとして、製品Aと製品Bの損益分岐点の販売量を求めなさい。

STEP 1

製品Aを2個、製品B3個を1セットとおき、販売量をXセットとしてP/Lを作成する。

単位：円	製品A	製品B	全体
売上高	2,500 × 2個 × X	2,000 × 3個 × X	11,000 X
変動費	1,500 × 2個 × X	1,400 × 3個 × X	7,200 X
貢献利益	1,000 × 2個 × X	600 × 3個 × X	3,800 X
固定費			1,900,000
営業利益			3,800 X - 1,900,000

参考

STEP 1

製品Aを2個、製品B3個を1セットとおき、販売量をXセットとしてP/Lを作成する。

単位：円	製品A	製品B	全体
売上高	2,500 × 2個 × X	2,000 × 3個 × X	11,000 X
変動費	1,500 × 2個 × X	1,400 × 3個 × X	7,200 X
貢献利益	1,000 × 2個 × X	600 × 3個 × X	3,800 X
固定費			1,900,000
営業利益			3,800 X - 1,900,000

STEP 2

Xについて解く。

$$\begin{aligned}
 3,800 X - 1,900,000 &= 0 \\
 3,800 X &= 1,900,000 \\
 X &= 500 \text{ (セット)}
 \end{aligned}$$

製品Aの販売量：500セット × 2個 = 1,000個

製品Bの販売量：500セット × 3個 = 1,500個

○ I級で扱う管理会計

経常利益を対象にしたCVP分析		営業外費用・営業外収益の取り扱い
最適セールス・ミックスの決定		利益を最大にする複数の製品販売量の組み合わせを決める
予算編成		期首において当期の予算を立てる
予算統制（予算実績差異分析）		期末において予算と実績を比較検討する
事業部の業績評価		事業部、事業部長の評価を行う
業務執行上 意思決定	新規注文引受可否	既存の注文に加えて、新規の注文を受けるかどうか
	部品の自製購入	従来は外部から購入していた部品を有給生産能力を有効利用し自製できないか
	追加加工の要否	追加加工後で販売した方がよいか
	事業部の継続廃止	事業部を継続すべきか、廃止すべきか
	材料の経済的発注量	もっとも材料の在庫費用が小さくなるような発注量は？
戦略的 意思決定	新規投資	新規に設備投資をすべきか
	拡張投資	設備投資の範囲を広げるべきか
	取替投資	古い設備を売却し、新しい設備に取り替えるべきか

○ その他

① 日商簿記Ⅰ級取得によるメリット

② 学習内容のメリット

③ 挑戦する前の注意点

本日のご参加、ありがとうございました！

ぜひ一緒に合格を勝ち取りましょう。

スタッフ一同、お待ちしております。

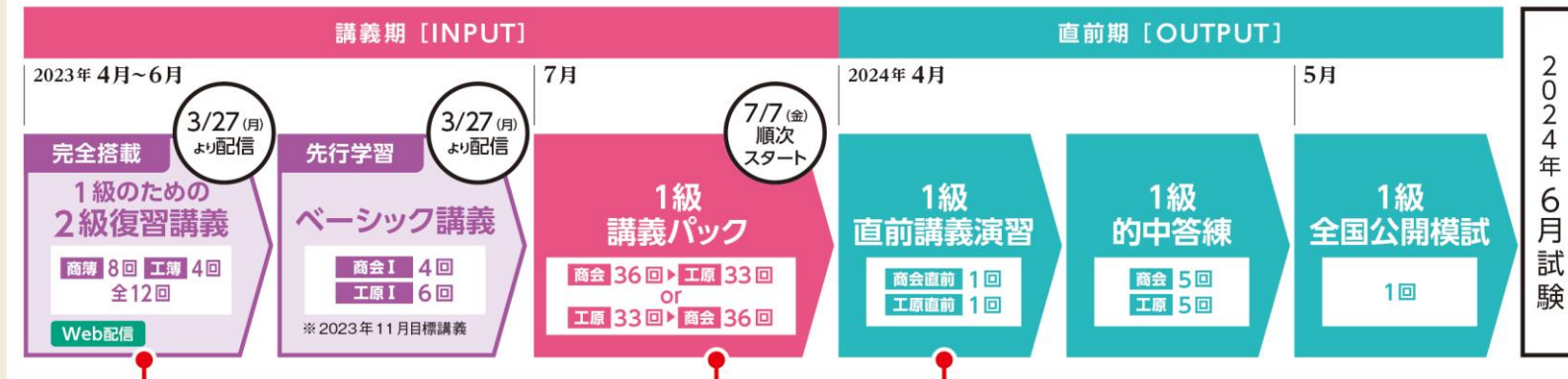
引き続き事務局からのご案内
そのあと Q&Aです！



★ 1級合格本科生 1年コース【2024年6月合格目標】

●新カリキュラム 《「収益認識に関する会計基準」などにも完全対応!》 無理のない週2回の講義受講ペース

全94回 [講義・答練時間…2時間45分] 商會：商業簿記・会計学 工原：工業簿記・原価計算 ※カリキュラム・講義回数・講義時間等は変更になる場合があります。予めご了承ください。



Point
1

1級の学習をよりスムーズに!
「1級のための2級復習講義」
(商簿8回・工簿4回/全12回)

Point
2

1級講義パックでは
商會・工原で
科目ごとに
しっかり学習

Point
3

1級直前講義演習では
商會は最新の論点、
工原はポイント復習

詳しくはこちら

⇒ https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/boki_crs_1goukaku_6gatsu_even.html

★キャンペーンのご案内

2024年6月目標

最大¥17,000割引！
お得に学習スタート！

簿記検定講座は
入会金¥10,000(税込)免除

1級合格本科生
(全94回) 1年コース

早割
キャンペーン

キャンペーン期間

2023年**3/27**(月)～**6/30**(金)

詳しくは⇒ https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/boki_campaign_C.html

【 Ⅰ 級 対 策 】

★ Ⅰ級合格本科生

①2023年11月目標⇒ 6カ月コース(6月中旬開講)

②2024年 6月目標 ⇒ 1年コース(7月中旬開講)

★ Ⅰ級アドバンス合格本科生 (学習経験者向コース)

①2023年11月目標 ⇒ 6月中旬開講

Ⅰ級対策【体験入学】

★Ⅰ年合格コース（2024年6月合格目標）

梅田校	7/15（土）	13：00～15：45	工原講義①
	7/20（木）	18：50～21：35	工原講義①
なんば校	7/16（日）	13：00～15：45	商会講義①

★6カ月合格コース（2023年11月合格目標）

なんば校	6/17（土）	13：00～15：45	工原講義①
	6/20（火）	18：50～21：35	商会講義①

★動画（ホームページより）・・・随時視聴可

Ⅰ級商会ベーシック講義 https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/tacchannel/0022QT01110100.html

Ⅰ級工原ベーシック講義 https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/tacchannel/0022QT01120100.html

予約優先制・個別受講相談 **【参加無料】**



★ TAC 個別受講相談予約（西日本地区）サイト
<https://www.tac-school.co.jp/west/soudan.html>

★TAC 簿記検定 開講講座一覧サイト

https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/boki_crs_idx.html

★TAC 簿記検定 教室講座日程表 サイト

https://www.tac-school.co.jp/kouza_boki/boki_nittei.html

★TAC セミナー/講座説明会/体験入学 案内サイト

<https://www.tac-school.co.jp/guidance.html>

★TAC 検定・資格&仕事紹介セミナー 案内サイト

<https://www.tac-school.co.jp/west/s.html>

★ TAC 個別受講相談予約（西日本地区）サイト

<https://www.tac-school.co.jp/west/soudan.html>

★ TAC 経理実務/税法実務/経営法務講座 サイト

https://www.tac-school.co.jp/kouza_jitumu.html